

一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を、
肩に担いで売り歩く～



越谷市議員 白川 ひでつぐ
シリーズNO 42

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来15年間、毎日続ける東武鉄道の市内6駅での朝、夜の駅立ちは、通算2900回を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前での様々な市民との出会いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

気温の変化だけで、気分が落ち着く

今朝の駅立ちは、午前6時から大袋駅東口で実施した。やっと春らしくなって来ているため、早朝でもそれほどの寒さは感じない。

寒気の中体の芯まで冷え切りながら、2時間30分を要して市政レポートの配布や市議会報告を続ける状態と比較すると、今朝の暖かさだけで気分が落ちついてしまう。

午前6時30分頃、朝の散歩中の旧知の高齢男性と話になった。

最近、大袋駅の西口の地域から転居して東口の付近が自宅となったので、私には会えないと思っていたので、今日は良かった(会えて)と。

市政レポートを渡しながら、一心太助は面白いですか、と尋ねた。

そうですね、日記風に書かれていて、駅の日常の風景と私の活動がよく分かります、との返事だった。

午前7時頃、春休み中の中学生が、グループでキャピキャピと楽しげに会話しながら、エスカレーターを昇って行く。やっぱりデズニールンドの行くのかなー、と心と呟いた。

午前8時40分過ぎ、駅頭が終了し街宣用具を撤収しているところに、馴染みの越谷市職員と話になった。

3月で35年務めた市役所を定年退職する。自宅の自治会の役員就任を要望されて、地域で活動することになった。やはり頼りにされるの

は嬉しい、との事だった。

そうですね、地域のお役に立てるのはボケ防止になるし、何より身近な地域に友達が増えるのが、これから長い人生にとって価値がありますね、と応じた。(3月29日)

首都圏サラリーマンの長時間通勤に思う

今朝の駅立ちは、午前6時から越谷駅東口で開始した。

午前6時30分過ぎ、30代のサラリーマンの方から毎回のワンコインのカンパを頂いた。

大きめにキャリーバックを持参しておられたので、出張ですか、と声を掛けた。

えー、現場が名古屋市なので、これから向かいます、との返事だった。

以前も話をしたが、名古屋市での仕事に従事しているとの事だが、新幹線利用で、東京駅からは1時間40分ほどで到着する。近いと言えば近いが、遠いと思えば遠い。

この例に限らず、首都圏の働き方の問題の一つは、職住が接近している環境でないと家庭や子育て、地域活動や趣味を生かすことが難しいことだ。

午前7時頃、馴染みの中年サラリーマンの方から、何時もの暖かいペットボトルを頂いた。

この差し入れのペットボトルが、ひんやり冷たくなるに従い、季節が変化して行きますね、と、話し掛けられた。

確かに月2回の定期的なペットボトルをの購入時に暖かい方がいいのか、冷たい方がいいのか、考えながら差し入れて頂いているのだろう。

(4月2日)

花見シーズン真っ盛り

今朝の駅立ちは、午前6時から午前8時30分まで、北越谷駅東口で実施した。

午前6時30分過ぎ、馴染みの中年サラリーマンの方から、冷たい缶コーヒーを頂いた。直ぐにお礼を言った後、“何時もありがとうございます”と付言した。すると、“何時もではないよ。今回で2回目の差し入れだよ”と笑顔の返事だった。

(裏へ)

それから直ぐに旧知の70代の男性から、昨日会員である年金団体のウォーキングの仲間で見会を開催したら、80人も集まってしまう、と嬉しそうに話し掛けられた。

そう、今まさに桜が満開でお花見に繰り出す絶好の時期なのだろう。

こんな気温のため、何人もの市民から、暖かくなっていいですね。駅頭も少しはやり易くなったでしょう、と声を掛けられた。

寒気の中、2時間30分間の駅立ちは、起床するにしても、市政レポートを配布するにしても寒さにかじかんだ体に気合いを入れないと、なかなか実行が出来ないのは事実であり、ベントコートも手袋も不要なので、助かっている。

ただ、左手のひじ痛は、完治しないので時々痛みを感じながらの駅頭を続けている。

(4月4日)



駅頭で出会う、“久しぶり”の意味は

今朝の駅立ちは、新越谷駅西口で午前6時前の駅前清掃から開始した。

駅前に到着すると、障がい者用の乗降スペースに大型のセダンが駐車していて、運転手が乗っていない。

運転手が帰って来ないので気になっていたら、30分後20代の男性が運転席に乗り込み車を発車させた。しかし、男性は障がい者ではなかった。

こんなルール無視が、公然と行われている日常の市民意識を基盤に財務省等の公文書改ざん問題が起きるのかなー、と頭をよぎった。

また、別の20代前半(の様に見えたが)の男性と女性を含む制服警官の一団(8人前後)が西口にやって来た。

早朝から何ごとかと思ひ、清掃の傍らから警察官とこの男性のやり取りが断片的に聞こえて来る。女性警察官は、カメラで周辺を映していた。

そのため正確には分からないが、この男性(酔っている様に見えたが)が飲食中に仲間なのか、同席していた客なのか、喧嘩状態になり事情を聴取されている様子。

時々この男性は、自分は被害者であり、加害者の様な扱いは許さない、と大声を出している。これを受けて男性警察官が、ため口風に話したことに腹を立て、敬語で話すように抗議していた。

結局、10分位のやり取りの後、西口の飲食店街に一団は去っていった。

午前8時頃、馴染みの高齢女性から声が掛かり、しばらく私と駅で会わないので、病気ではないのか、心配していた、との事。

いいえ、全く健康ですし、月2回のペースで6駅の東口、西口を順次ローテーションで駅立ちを実施しているので、たまたま気づかなかっただけではありませんか、と返事をした。

何時もの様に、暖かい紅茶ミルクのペットボトルとおにぎり、スコーンを差し入れて頂いた。

また、旧知の高齢男性からも、2か月位会っていないので、今日は久しぶりだと、話された。

同じ様に、説明をしたが、あまり納得されたような顔つきではなかった。

駅立ちがすでに風景となっており、その風景が少し変化したと感じておられるのだろう。

ただ、お二人とも、私の健康状態を心配して頂き、また一心太助を楽しみにされている様だ。

更に午前8時30分過ぎ、何時もは蒲生駅東口を自転車で通過している65才の男性が通りかかった。本年3月15日で長年勤めていた会社を定年退職したので、私には当分会えないと思っていたが、ここで会えて良かった、とのこと。(私も会えてよかった)

(4月6日)

調理師への就職は不人気

今朝の駅立ちは、午前7時から、北越谷駅西口で実施した。

終了間際の午前8時30分前、越谷駅西口で良くお会いする65才の男性から声が掛かった。

高校を卒業後日本料理の調理師として40年程大きな居酒屋で働いて来た。一旦退職したが職人がいないためアルバイトで再雇用されて、今は昼間の時間帯だけの勤務となっている。

また、長年の労働のため体のあちこちを治療している状態だ。同じ職場に若い人がアルバイトとして働いているが、正規職になっても、低賃金、長時間労働のため、この職種での正規雇用を望んでいない、と。依然として労働環境が改善していない、一例だ。(4月11日)